

平成27年度事業実績報告

平成27年度の事業計画の下、次の事業を実施した。

1. 会議の開催

(1)総会を平成27年5月29日(金)メルパルク東京において開催した。

(2)理事会

第1回理事会 平成27年 5月29日(金)

第2回理事会 平成27年 7月23日(木)

第3回理事会 平成27年11月11日(水)

第4回理事会 平成28年 3月28日(月)

(3)各部会役員会を各部会年3～6回開催した。

2. 事業の実施

平成26年6月に花き業界が連携して要望してきた「花きの振興に関する法律」が制定されたことから、当協会の事業も従来からの活動に加えて、全国花き振興協議会(全花協)と連携し「国産花きイノベーション推進事業」を活用した新たな活動を展開した。

(1) 花き消費増大事業

ア. 全国花き振興協議会が事業実施主体となり、国産花きイノベーション推進事業「くらしに花を取り入れる新需要創出事業」を実施した。日常生活における花きの利用増進を図るため、Flower Biz(月曜日のオフィスに花・緑を)、Flower Friday(金曜日の家庭に花・緑を)をキーワードに普及を図ることとし、各地で異業種と連携した講演会やイベントの開催、マスコミとの連携やポスター・リーフレットの配布等を実施した。

イ. JFTDとJELFAの共同実事業で、国産花きイノベーション推進事業「オリンピック・パラリンピックフラワー安定供給対策事業」を実施した。真夏のオリンピック等で利用が期待されるデコラ・ポンポン型のスプレーぎくの秋系品種の中から、夏季に利用可能な品種を選定するための栽培実証の他、屋内装飾やビクトリーブーケなどに利用が期待される切花9品目、鉢物13品目の夏季日持ち試験を実施し一定の成果を上げた。活動の結果は「オリンピック・パラリンピック花き供給マニュアル」に取りまとめ、会員事務局の他、農林水産省、全都道府県、関連団体に配布した。

ウ. 全国花き品評会における優秀作品(洋らん部門、シクラメン部門)の展示、販売等を通じて消費者等に優秀な花きへの関心を高め消費拡大を図った。

エ. 華道家・假屋崎省吾氏の展示会に、当協会部会から花材を提供・協力して花きのPRを図った。27年7月22日～8月3日に日本橋三越本店での展示会に輪ぎく部会、スプレーぎく部会が花材の提供協力(入場者3.5万人)、10月1日～25日に目黒雅叙園での展示会に輪ぎく部会、カーネーション部会、球根・切花部会が花材の提供協力(入場者6万人)、28年3月24日～4月9日に新潟市旧齋藤家別邸での展示会に輪ぎく部会

が花材の提供協力を行った。

オ. 部会活動の中で、花きの消費増大のための活動を広範に展開した。

(ア) 奈良東大寺花まつり（仏生会）に対し、輪ぎく、スプレーぎく、カーネーション、ガーベラ各1,000本を提供した。一般観光客等の花への理解と関心を深めた。

(イ) 物日商品情報交換会（春のお彼岸用切花、母の日用切花・鉢物、お盆用切花、秋のお彼岸用切花、年末・クリスマス用鉢物、正月用切花）が一般社団法人日本花き卸売市場協会主催で開催され、各部会から積極的に参加して花き需給の安定・消費増大に努めた。

(エ) フラワーバレンタインデー、母の日、父の日等全国鉢物消費拡大プロジェクトに参加し消費増大に努めた。

(オ) その他、東京銀座SONYビルでのあじさいの展示（鉢物部会）、大阪市茶屋町での「スプレーマムフェア2016」の消費拡大活動（スプレーぎく部会）、各地から選定された6名のリリーエンジェルによるユリのプロモーション活動（球根・切花部会）、東京ドームでの世界らん展への出展や世田谷市場祭りへの参加（洋らん部会）など、花き消費増大に向けた取組を実施した。

(2) 表彰事業

全国花き団体、都道府県、出荷団体等が開催する花きの品評会、イベント等に対し協賛・後援を行うとともに、生産協会会長賞の交付及び記念品を贈呈して優秀な花きに対し顕彰を行うことにより、花きの生産振興と優良な花きの普及啓発に努めた。

(3) 研修交流等事業

ア. 今年度は生産者大会の開催がなかったことから、部会活動を主体とする花きの生産、経営、流通の改善に関する効果的な研修（研究）交流事業を実施するための企画運営への支援を行った。

イ. 部会活動における研修（研究）交流事業

全国の花き生産者相互の交流や卸売・小売事業者との交流を通じて、花き生産者の生産、経営、流通の改善に関する研修（研究）交流活動を広範に実施した。

(ア) 輪ぎく部会：平成27年度輪ぎく部会リーダー研修会を平成27年10月19日（月）～20日（火）に東京都において開催し、約90名の生産者や関係者が参加し「マムの可能性と新たな展開」「菊類の日本向け海外産地の情勢」等について講演を聞き意見交換を行った。2日目は花材提供・協力をした目黒雅叙園での「華道家・假屋崎省吾の世界」展を視察した。

(イ) スプレーぎく部会：第27回全国スプレーマム静岡大会を平成27年11月18日（水）～19日（木）に開催し、約200名の生産者や関係者が参加して4名の功労者表彰の後、「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて～ビクトリーブーケにスプレーマムを！～」と題した記念講演を聞き、「スプレーマムを活かしたミニブーケづくり」を参加者全員で体験した。2日目は生産者の圃場及び種苗業者の展示圃場の視察等を行った。

(ウ) カーネーション部会：平成27年度カーネーション部会技術研修会を平成27年10月8日（木）～9日（金）に大阪市において約110名の参加の下に開催した。

「花の輸出について その現状と課題」「カーネーション輸入の現況と消費拡大への提言」「国産カーネーションへの仲卸からの提言」について講演を聞き、意見交換を行った。また、2日目は「カーネーションの技術的課題」について質疑応答を行った。

(エ) 球根・切花部会：平成27年度球根・切花部会通常総会・リーダー研修会を平成27年4月27日(月)～28日(火)に富山県砺波市において、約30名の生産者等が参加して開催した。「チューリップ品種育種の現状」「花き業界の展望」等について講演を聞き、意見交換を行った。2日目はチューリップフェア会場及び観光圃場を視察した。

(オ) 鉢物部会：平成27年度鉢物部会リーダー研究会を平成28年2月15日(月)～16日(火)に兵庫県神戸市において約80名の生産者等の参加の下に開催した。「トミ一流購買意欲をかき立てる園芸文化とは」「サイバー農家の夢とチャレンジ」について講演を聞き、意見交換を行った。2日目は兵庫県内の生産者の圃場視察を行った。

また、鉢物部会青年部愛知大会を平成27年10月28日(水)～29日(木)に青年生産者等約70名が参加して開催し、フラワーウオークや都市緑化あいちフェア会場で「いい夫婦の日」プロモーション活動などを行った。

(カ) 洋らん部会：平成27年6月8日(月)に開催した洋らん部会第25回通常総会の後に、「商品を守るためのプロモーションとは」の講演を聞き、エアコン機器関連事業者も交えて意見交換を行った。

エ. 平成27年度全国花き品評会(洋らん部門・シクラメン部門)の開催

全国花き品評会・洋らん部門は平成27年11月20日(金)東京都中央卸売市場大田市場花き部(株)フラワーオークションジャパン(FAJ)において、同社の協力を得て開催した。全国から240点の出品があり、金賞50点を選びこのうち上位30点に特別賞を、10点にベストオブカテゴリー賞を授与した。出品作品は審査終了後市場に展示、即売するとともに、特別賞受賞作品の一部は羽田空港国際線で展示する他、NPO法人地域活性化支援センターの支援する「恋人の聖地」プロジェクトに協賛しシーライン東京の展示施設に寄贈展示された。

また、同品評会・シクラメン部門を平成27年11月25日(水)東京都中央卸売市場大田市場花き部(株)フラワーオークションジャパン(FAJ)において、同社の協力を得て開催した。全国から425点の出品があり、16点に特別賞を授与した。出品作品は審査終了後市場に展示、即売した。

(4) 調査研究事業

ア. 花き生産振興等に係る情報を収集し、各都府県花き連に連絡等を行った。

イ. 平成28年4月からの電力販売自由化に関連して、施設園芸用電力の販売に関する新たな動きがみられることから、花き生産者の園芸施設での電気利用実態調査を28年2月～3月に実施した。結果を取りまとめ・分析して、各種の要請・要望などの資料として活用する計画。

(5) 活動支援事業

(財) 日本花普及センターが行う花きのコード取引を推進する「日本花き取引コード

普及促進協議会」、花きの輸出拡大の協議を行う「花き輸出拡大協議会」、花育マニュアルの作成等を行う「全国花育活動推進協議会」等への活動支援を行った。

また、全国でも有数の出品点数を誇る関東東海花の展覧会に対し協力を行った。

(6) 花き情報の連絡、指導等事業

花き生産者の生産と経営改善、花き流通改善等について、関係者への要望、陳情等を行うとともに、その結果を各都府県花き連等に連絡した。

ア. 会員の意見を募り「花き生産者の経営安定対策に関する要望書」を取りまとめて、平成27年6月26日付で当協会会長名で農林水産省生産局長、花き産業・施設園芸振興室長宛に提出した。同要望書では、花き園芸施設の燃費低減のための支援対策の強化、鉢物集出荷拠点施設の整備に関する計画策定を含めた支援、国産花きイノベーション予算の確保と運用の弾力化、全国団体が実施する花き消費拡大・オリンピック等フラワー安定供給対策の継続、施設園芸用の低価格な電力料金制度の確立等について要望した。

イ. 第10次卸売市場整備基本方針策定案に関するパブリックコメント募集に対応して、会員事務局や役員から意見を募り、意見を取りまとめて平成27年11月10日付で当協会として農林水産省に意見を提出した。

ウ. TPP合意による農産物貿易拡大に関する要望事項を会員事務局及び役員に募り、「TPP合意に伴う農産物貿易拡大への対応に関する要望」に取りまとめて平成27年11月6日付けで農林水産省生産局長、花き産業・施設園芸振興室長宛に提出した。同要望では、日本版のチェックオフ制度の創設、農業用電力の改善、花きの生産基盤及び流通体制の強化のための措置について意見を述べた。なお、同様の内容を、11月27日に齋藤健農林水産副大臣に面談して要望した。

エ. 平成27年12月に農林水産省から輸入検疫対象とする有害動植物の指定対象から、輸入球根類で国内に導入されると防除が困難なウイルスが除外される計画との情報があったため、12月22日付で農林水産省消費・安全局長あての除外対象からの除外要望書を提出し、その後検疫室と交渉した結果、当協会の要望が受け入れられた。

オ. その他、会報「花作り」57号を発行し配布したほか、会員事務局との連絡を密にし意思疎通を図る観点から、花き関連情報や当協会活動内容等に関して3カ月毎に「四半期報告」に取りまとめ、会員事務局や役員に対しに連絡等を行った。

(7) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

ア. 平成27年度度末で新たに会員の退会が見込まれる等から、当協会の財政事情の改善が緊急の課題であったことから、理事会からの検討要請を受けて、活性化検討委員会を27年5月と9月の2回開催し、財政再建のための会員制度・会費負担のあり方や事務所移転等支出の削減方策について議論し、理事会に報告を行った。

イ. 平成27年12月から、原則として各月1回農林水産省花き産業・施設園芸振興室幹部と当協会幹部との定期情報交換会を実施し、意思疎通を図っている。

ウ. 日本花き卸売市場協会幹部と当協会幹部との意見交換会が平成27年9月2日（水）に開催された。会議では市場協会側13名、生産協会側13名が出席し、最近における花き市場の動向、花き生産の動向、生産協会側からの市場取引に関する要望事項などについて協議を行った。